

## 事例報告

## 反社会的行動が頻発する軽度発達障害児の事例比較

## — 2事例の比較を通して —

中村 仁志\*

## 要約

軽度発達障害は一次的には多動、対人関係などの行動面の問題が取り上げられるが、二次的な問題として非行などを含めた反社会的行動が上げられる。軽度発達障害の反社会的行動は、その行為に至るまでの心理的背景について、障害の種類によって異なると考えられる。

今回、軽度発達障害で注意欠陥／多動性障害が疑われる事例とアスペルガー障害の傾向が強い事例を比較し、それぞれの反社会的行動に焦点を当て、その問題について障害の特徴をもとに検討を行った。

注意欠陥／多動性障害の特性を持つものでは、実行機能の問題がその背景にある衝動性に加えて劣等感や低いセルフエスティームとの関係から起こり、情緒的な対応で存在感を認めることが問題解決に有効であった。アスペルガー障害の特性を持つものでは状況把握の未熟さと被害的な感情が結びつき、さらに低いセルフエスティームも問題行動に関係しており、善悪に対する明確な対応、環境調整が問題解決に有効であった。

キーワード：軽度発達障害、注意欠陥／多動性障害、アスペルガー障害、セルフエスティーム、反社会的行動

## 1 はじめに

軽度発達障害は、「軽い知的な問題」や学習障害(以下LD)、あるいは広汎性発達障害(自閉症グループ)、注意欠陥／多動性障害(以下AD/HD)、発達性協調運動障害の5つの名称が軽度発達障害の仲間として認められている<sup>1)</sup>。軽度発達障害は一次的には多動、対人関係などの行動面の問題が取り上げられるが、二次的な障害として非行などを含めた反社会的行動とつながりやすいとされている。近年の少年犯罪の加害者にこうした診断がついたものも少なくない。ただ、ひとくくりに軽度発達障害の反社会的行動といってもその行為に至るまでの心理的背景はそれぞれの障害で異なると考えられる。

今回、軽度発達障害でAD/HDが疑われる事例と広汎性発達障害のうちアスペルガー障害(以下AS)の傾向が強い事例を比較し、それぞれの反社会的行動に焦点を当て、その問題について障害の特徴をもとに検討を行ったので報告する。

## 2 事例紹介

(事例1・2に関してはプライバシー保護のため、特徴を損ねない程度に改変してある。)

## 事例1

Mくん、男子、中学1年生(相談開始時)

## 1) 診断名

不注意、多動、衝動的行動が目立ちAD/HD的な行動の問題が全面に現れていること。不登校状態で精神科受診歴はあるが診断はされていない。「普通の良い子」との評価で、問題については「気長に見ていきましょう」と言われる。

## 2) 検査

ADHD RS-IV-J=不注意23, 多動/衝動性23, スコア合計46(表1)

心理検査により、力はあるが気持ちをコントロールすることは苦手。直感的思考は強いが論理的思考が弱い。

## 3) 主訴

物忘れや不注意な行動が多い。多動で落ち着きがない。衝動的。「あれ、何をしようと思ったんだっけ」と目的や結果を考えずに行動に移すことが多く、AD/HD的な傾向が見られる。不良っぽい生徒に圧倒されながらも、断りきれずにつきあっている。学習面での遅れなどもあり、中1、2学期のはじめから不登校ぎみの状態。母親は「まとまりのない、突拍子のない行動で疲れてしまう」との訴えをする。

\* 山口県立大学看護学部

表1 MくんのADHD RS-IV-Jのスコア

ADHD RS-IV-J	ない、もしくは、ほとんどない	ときどきある	しばしばある	非常にしばしばある
1. 学校の勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
2. 手足をそわそわ動かしたり、着席していてもじもじしたりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
3. 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 授業中座っているべきときに席を離れてしまう。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
5. 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
6. きちんとしていなければならないときに、過度に走り回ったりよじ登ったりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
7 指示に従わず、またやるべき仕事を最後までやり遂げない。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
8. 遊びや余暇活動におとなしく参加することがむづかしい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
9. 課題や活動を順序立てて行うことが難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
10. じっとしていない、または何かに駆り立てられるように活動する。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
11. 精神的な努力を続けなければならない課題（学校での勉強や宿題など）を避ける。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
12. 過度にしゃべる。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
13. 課題や活動に必要なものをなくしてしまう。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
14. 質問が終わらないうちに出し抜けて答えてしまう。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
15. 気が散りやすい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
16. 順番を待つ野が難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
17. 日々の活動で忘れっぽい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
18. 他の人がしていることをさえぎったり、邪魔したりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3

ADHD RS-IV-J=不注意23, 多動/衝動性23, スコア合計46

4) 生育歴

小学校では明るい子ども、おもしろい子どもとの評価を受けている。小学1年の時に母親が参観日に行くと「暑くて水遊びをしたら濡れたので」とパンツだけで授業を受けていた。とにかく落ち着きがなく、まとまった行動ができない。学校からの下校時、毎日道草をして服をドロドロに汚して帰ってくる。中1の現在も時々ある。友達も多く、特に女の子に人気がある。大人からもかわいがられるタイプ。

5) 問題となる行動

① 学校での問題

中1、2学期から不登校ぎみの状態。登校したときには不適切な行動がある。学校では不良っぽい生徒を恐れているが、すぐに目をつけられる。嫌がりながらもつきあっている。

② 行動の特徴

ア. 行動

とにかく落ち着きがない。まとまりがない行動が多い。母親に叱られて2階から飛び降りて初めて2

階と気づき窓枠につかまって助けを呼ぶ。ショッピングセンターの展示おもちゃを持ち出し、店内で遊び始める。下校時(中1時)、ズボンを脱いでパンツになって川を渡る。落ち着いて食事ができないため、ほとんどお茶づけにしている。悪ぶって突っ張っているため、すぐに不良っぽい子に目をつけられる。自作のコスチュームを作り、それを着てその役になりきり、家の外でポーズを取っている。

イ. 不注意

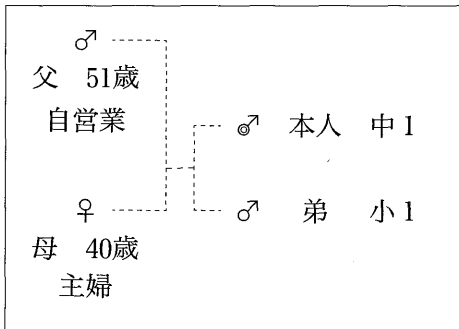
物忘れが多い。動いてから「あれ、何しに来たんだろう」と言うことが多い。学校に教科書を忘れて帰る。注意をしても1分もたたないうちに同じことをして怒られる。

ウ. 状況把握・判断

危ないことを平気でする。良いこと悪いことが分からないと思えるようなところがあるが、あとでゆっくり考えると理解している。何かをやり始めるとついやり過ぎてしまうなど、適当ということが分からない。行動の結果の見通しがつかない。次に起こる

この予測がつけられない。

6) 家族歴



7) 反社会的(暴力的・破壊的)行動について

①貼り紙事件

信頼していた習い事の先生から暴力をふるわれ怪我をした。腹を立て、先生を非難する貼り紙を作り、近所の公園の立木に何枚も貼った。

②消火器・釣り銭事件

友達数人と廃業して放置された施設に入り、設置してあった消火器をまき散らした。施設内にあった自動販売機を壊し、釣り銭を着服した。

③いたずら電話事件

同級生の自宅に警察と偽り、「お宅の子どもが事故に遭い、病院に運ばれ亡くなりかけている」とのいたずら電話をした。

④紙吹雪・椅子積み上げ事件

早朝登校した時、友達と共に教室の机と椅子を天井まで積み上げ、上から紙吹雪を蒔いた。

8) 対応

転校を提示して半年以上かけて自分で決断するよう促した。転校により不良傾向のある子どもとの分離をする。教師がMくんに対して“学校に登校できたこと”“授業中寝ていても授業時間中教室にいられたこと”“試験を白紙で提出しても「絵がうまいのだからそれを描いて提出ぐらいしろ」と彼の得意なことを十分認める”など存在を認める対応を行った。また、転校先の近くの知り合いが、登校の様子を確認してくれたり、家庭教師の学生を紹介してくれたり、地域的なサポートを行った。

母親に対しては、筆者が心理的なサポート、具体的に「行動を認める」対応を指示した。

連携はしていないが学校、地域、専門家のサポートが得られている。

事例2

Hくん、男児、小学6年生(相談開始時)

1) 診断名

診断1 AD/HD(不注意優勢型), AS

診断2 AD/HD(不注意優勢型)

診断3 LD, AD/HD

診断4 AS, 境界知能

1年のうちに4カ所で診断を受け、診断1~4と診断される。診断では「言語性IQが低く、行動の予測がつきにくい」「自分の意思表示ができず、問題行動を起こしたり、集団に適応できないため不登校になることもある」との指摘があった。

2) 検査

WISC-R=VIQ75,PIQ78,FIQ74:PRS=非言語性21言語性38,総合判定59

ADHD RS-IV-J=不注意21,多動/衝動性5,スコア合計26(表2)

3) 主訴

不注意で物忘れが多い。集中力がない。5年生頃からいらいらすることが多くなる。怒るとすぐに切れてしまう。気力がなくなり、勉強する気がなくなる。勉強などちょっとできないと腹を立て、課題を破ったり投げつけたりする。

対人関係でのトラブルが多い。反抗的で常に自分が悪いと思わない。人のせいにする。ちょっと気に入らないことがあるとすぐに怒り、同級生や弟などとけんかになる。けんかが始まると激しく、親は止められなくなる。昨日わかったと思われたことが今日できない。算数が特にできないため親はLDを疑う。ひどい多動傾向は見られない。

4) 生育歴

生まれたときから常に抱いていないと泣く。寝入ったと思ったらすぐ起きるなど、育児に困ることが多かった。

いつも集団から離れ、他児と一緒に何かをすることができなかった。一つの遊びを集中して続けられなかった。

5) 問題となる行動

① 学校での問題

授業中に他児にちょっかいを出したり、休み時間に遊んでいてやりすぎてしまいトラブルになることがある。他児に対して「俺のことを睨む」「悪口を言う」など被害的な言動が多い。集団からはずれて行動している。「学校に行きたくない」と言う。勉強ができないため授業中寝ていることが多い。制服を着ないで登校したり、上履きを履かないなど校則

表2 HくんのADHD RS-IV-Jのスコア

ADHD RS-IV-J	ない、もしくは、ほとんどない	ときどきある	しばしばある	非常にしばしばある
1. 学校の勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
2. 手足をそわそわ動かしたり、着席していてもじもじしたりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
3. 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input checked="" type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
4. 授業中座っているべきときに席を離れてしまう。	<input checked="" type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
5. 面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
6. きちんとしていなければならないときに、過度に走り回ったりよじ登ったりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
7 指示に従わず、またやるべき仕事を最後までやり遂げない。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
8. 遊びや余暇活動におとなしく参加することがむづかしい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
9. 課題や活動を順序立てて行うことが難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
10. じっとしていない、または何かに駆り立てられるように活動する。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
11. 精神的な努力を続けなければならない課題（学校での勉強や宿題など）を避ける。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
12. 過度にしゃべる。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
13. 課題や活動に必要なものをなくしてしまう。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
14. 質問が終わらないうちに出し抜けに答えてしまう。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
15. 気が散りやすい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input checked="" type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
16. 順番を待つ野が難しい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
17. 日々の活動で忘れっぽい。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3
18. 他の人がしていることをさえぎったり、邪魔したりする。	<input type="checkbox"/> 0	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2	<input checked="" type="checkbox"/> 3

ADHD RS-IV-J=不注意21, 多動/衝動性5, スコア合計26

違反がある。先生からは問題の指摘はあまりない。

② 行動の特徴

ア. 行動

落ち着きがない。不注意。物忘れが多い。

イ. 感情

「うざい、殺してやる」とすぐ言う。怒りっぽい。すぐ切れる。反抗的。攻撃的。いつもいらいらしている。睡眠がとれないと特に不安定になる。

ウ. 状況認知

小さい子・弱い子をいたわれない。自分より強そうなものにも攻撃的で自分からけんかを仕掛けて行く。

エ. こだわり

大事にしている持ち物にちょっとでも傷が付くと我慢できない。

オ. 感覚

くすぐったがる。靴下を履くのに30分位かかる。タグのあるシャツが嫌で着られない。制服より体操服の感じが好きなので制服を着ない。食べ物の好き

嫌が多い。においに敏感。

カ. 学習

言語理解が少なく、意味の覚え間違いが多い。語彙数が少ない。できないことに向かおうとしない。

キ. 運動

身体能力はあるが複雑な動きやルールを求められるとできない。チーム競技は苦手。

ク. 対人関係

逆恨みが多い。自分では悪いと思わない。注意されると被害的もしくは攻撃的になる。何が楽しいのか端で見ていて分からない。友達に楽しい遊びを提供できない。しかし友達を求める。

ケ. 問題意識

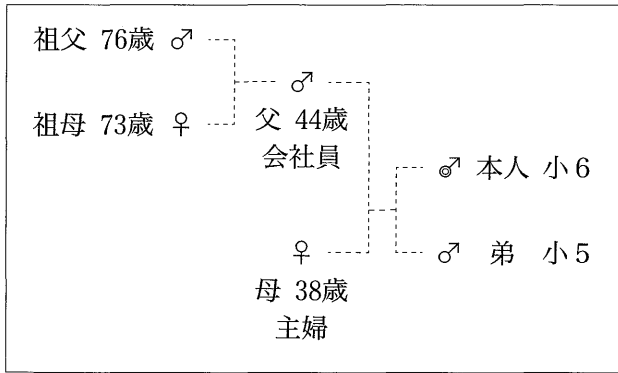
「自分はどこも悪くないのに、どうして相談に行かなければならないのか」と言い、問題意識は少ない。

コ. その他

こうあらねばならないと思っていることが多く、正義感は強い。ただ、求められてできないことがあ

ると暴れたり、逃避したりする。

6) 家族歴



7) 反社会的（暴力的・破壊的）行動について

① 下級生の女の子に殴りかかる。

下級生の女の子に「やる気のない者はやらなくていい」と言われたことに腹を立てて殴りかかった。心理テストでは「小さい子から悪口を言われたら……」という質問に「殴る」と答えた。

② 教科書を破る。物を投げる。机を蹴る。

苦手な教科書の宿題を親に促され、やるのが嫌で暴れた。本人は暴れたことについて悪いことをしたと思っていない。

③ 「車の運転をさせろ」と言う。

車に乗っていても、自分の欲しい物があるときには、店に着くまでイライラしている。特に信号待ちや駐車場待ちなどの時は激しい。「運転を自分にさせろ」と言い、断ると「何で自分が運転をしてはいけないのか」と親に食って掛かる。

④ 万引き

非常に正義感強いが、誘われて万引きをした。

⑤ 同級生を「ウザイから、殴っていいか」と親に聞く。

「他の子がいつも睨んでいる」「頭にくる」「ウザイから殴っていいか」とすぐに言う。参観日にいくと、本人は授業を聞いていなかったり、常に周りの子にちょっかいを出していたりする。他の子どもに迷惑がられ睨まれていた。

⑥ 不良グループとのつきあい

ア. ゲームセンターに行ったことが先生にばれてグループ全員が怒られたが、怒られたその足でカラオケに行った。「ゲームセンターに行っちゃいけないと怒られたが、カラオケのことは言われなかった」と真顔で答える。

イ. 近所の家壁にスプレー缶で落書きをして、住人にひどく怒られた。その後も同級生とのトラブル

のうっぶん晴らしに近くの家壁にスプレーで“死ぬ”と落書きをした。なんと怒られてもへらへらしている。罪悪感が感じられない。

8) 対応

問題を起こす度に母親が“やったことは悪いことであるということ”を一貫して毅然とした態度で示した。母親と一緒に謝りに行くことで“謝るほどの悪いことをした”ことをわかりやすく示した。さらに問題を起こすグループとの関わりを絶つことを指示する対応を行った。友達関係、学習問題を解決するために他校での特別支援教室の利用を検討したが、本人が希望せず実現しなかった。

中学進学に関しては、両親が農村部の小規模中学に転校することに決めている。

3 考察

1) 反社会的行動についての比較

AD/HDの状態像は不注意、多動、衝動性の行動特徴を有し、ASは対人関係や社会性の問題、想像力の障害（こだわり行動など）の特徴を有す。ASなど広汎性発達障害とAD/HDの重複診断はDSM-IV<sup>2)</sup> 及びICD10<sup>3)</sup> は認めていないが、白瀧<sup>4)</sup> はAD/HD、LDとASの認知、神経心理学的な機能の特徴を検討すると、かなり共通する部分があるとして、「AD/HD、LDとASは全く異なった平面で定義される概念であり、両者は互いに排他的ではない」と両者の重複診断を認めようとする考えを述べている。それだけ状態像としては共存することが認められるが、反社会的などの問題行動についてはAD/HD、ASどちらの特徴から対応を組み立てるか判断・考慮する必要があると考える。

事例1のMくんは、診断はされていないものの彼の主訴・生育歴・行動から不注意、多動、衝動性の特徴が前面に出たAD/HD的な傾向から引き起こされる問題が多い子どもであると考えられる。

貼り紙事件に関しては、彼の信頼していた先生に裏切られた、むなしさ、悲しさから惹起された怒りによる行動であり、情緒的・相互的対人関係のトラブルと考えられる。彼の行動に至る背景は一方的な恨み、被害感情からではなく情緒的な因果関係は我々でも納得できる明確で理解しやすいものであり、その怒りには共感できる。しかし、その後の貼り紙の行為は結果を見通せない、いかにも衝動的な行動と言える。

消火器・釣り銭事件、いたずら電話事件については犯罪にもつながる行為であるが、紙吹雪・椅子積み上げ事件とともに、好奇心や楽しさがその行動の背景にあると考えられる。彼の多くの反社会的な問題行動はそうした感情に共感した友人と一緒に起こした逸脱行動であり、“つい”お調子者としてとった衝動的な行動として捉えられる。お調子者の行動は田中<sup>5)</sup>の言う自己犠牲的であり集団帰属性を維持しようとした切ない結果ともいえる。

原田<sup>6)</sup>は劣等感が低く自己評価が低いAD/HD児は容易に敵意を抱くとして、共に自己評価、自己価値観、自尊感情、自己肯定感などいわゆるセルフエスティームの低下と反社会的行動の関連を述べている。Mくんの行動の背景には敵意は感じられないが、不登校気味の状態からセルフエスティームの低下は十分に考えられる。それに加えて衝動統制の未熟さがMくんの問題性であり、結果を考えずに何度も同じような行動してしまう。やったことについて指摘されるとそのたびに「また、やってしまった」という罪悪感を持っていることが強く感じられる。まさにバークリイ<sup>7)</sup>の言う実行機能の障害であり、自己抑制が能力として発達しない、将来に向かって作業を遂行できない、自己認識、自己制御、時間の感覚の障害を背負っていると言える。

事例2のHくんはAD/HDの不注意優性型との診断はあるが、状況把握の未熟さによる被害的傾向が強く、共感性の希薄さからとらえると問題の発生機序が理解しやすい。星野<sup>8)</sup>はASと行為障害、反社会的行動について、私見としながらも①高い視覚的認知能力や言語能力と社会的（対人関係）能力のギャップ②共感性や社会的場面での状況判断力の欠如③自分の感情のセルフ・コントロール不足④過度に道徳的で融通が利かず、規則やルールにこだわりすぎることで対人トラブルをその原因としてあげている。

下級生の女の子に殴りかかるや同級生を「ウザイから、殴っていいか」と親に聞くなどの行動について、田中<sup>1)</sup>はASの青年期の問題としてではあるが、対人関係が「なぜうまくいかないか」をわかるためには、「他人の目」を持って評価しなければならぬが、ASを持つ者は「相手の身になって、自分の経験を見る」ことができにくいため問題が不明瞭になる。そうすると「僕はダメな人間だ。だから無視をされた」とか「皆、僕を憎んでいる。だからう

まくいかない」との不確実な思いこみから、劣等感や被害的な感情を抱いたりしやすい危険な状態にあるとして、Hくんの様な被害的感情による逆恨み的行動の発生機序を説明している。

ゲームセンターの問題について、石坂<sup>9)</sup>は自閉症(ASは自閉症スペクトラム)がコミュニケーションを取る際の脈絡の認知について、しばしば脈絡それも重層的な脈絡や、明示的でない情報を考慮していないと考えられるとしている。つまり他の子どもは確信犯と思われるが、Hくんにとっては「ゲームセンターに行ってはいけない」ことを怒られたのであって、「カラオケにも行ってはいけない」ことについては非明示的情報であり、情報の共有という相互関係の成立が困難であったために起こった行動である。

下級生に「殴りかかる」もそうであるが、最初の家の壁の落書きに対しては、外に廃品を積み重ねている家であり、汚いものは許されないものという自分勝手な文脈や“こだわり”からの怒りの行動である。まさに星野<sup>8)</sup>の「過度に道徳的で融通が利かず、規則やルールにこだわりすぎる」感情が前面に出た行動である。

“死ぬ”との落書きは、劣等感や被害的な感情から起こる攻撃性と田中<sup>5)</sup>の言う軽度発達障害を持つものの「孤立・無力・透明化した自己像」と自己の無価値化に関連した捨て鉢な気分からの行動と捉えられる。そこには、学校でうまくいっていない、学習の問題などからの低いセルフエスティームが見られると共に「怒られても少しも罪悪感を感じていないようだ」と母親が語るように、共感性や相互的対人関係の乏しさが伺える。

杉山<sup>10)</sup>は軽度発達障害について、「軽度」だから問題が少ないのではなく、逆に発見されにくさ、認められにくさ、理解されにくさを持ち①健常児との連続性の中に存在し、加齢、発達、教育・保育的介入により臨床像が著しく変化する②視点の異なりから診断が相違してしまう③理解不足による介入の誤りが生じやすいそして④二次的情緒・行動障害の問題が生まれやすいとしている。中林<sup>11)</sup>はASの援助群と非援助群の比較から、「非援助群では他者の働きかけに対する応答が悪く、外界の情報を単純かつ現実的に処理することが困難で、その結果思考過程の逸脱を呈する可能性が高くなりやすいことが伺えた」としており、その子どもの発達障害の特性

をつかみ、理解して、適切な対応が早期に必要とされる。

## 2) 対応についての比較

MくんとHくんに関わった1年から1年半の間に、反社会的行動は明らかに減少した。

不登校気味だったMくんは転校をきっかけに反社会的行動は殆どなくなり、不登校は解決した。その背景には学校に行きたい気持ちも強く“転校してがんばって登校しよう”という決意もあったのだが、そうした気持ちや不安そしてMくんの存在を学校の教師が受け止めてくれたことが大きな原因だったと考えられる。AD/HDの対応としてできたことを“褒める”という対応が用いられる<sup>12)</sup>。AD/HDに対して“褒める”ということは非常に効果が認められる場合がある反面、中学生など思春期にあるものに対しては非常に白々しく聞こえる場合もあり、その時には褒めることがマイナスにもなる。今回教師が取った対応は“学校に登校できたこと”“授業中寝ていても授業時間中教室にいられたこと”“試験を白紙で提出しても「絵がうまいのだからそれを描いて提出ぐらいしろ」と彼の得意なことを十分認める”など細かいことの積み重ねであった。こうしたMくんをダイレクトに“褒める”ではなく存在感を認めることはこの時期の子どもたちに有効な“褒める”行為であり、徐々にではあるが彼自身のセルフエスティームが高まっていき、がんばって登校できるようになった要因であると考えられる。さらに自信を持つことにつながるといい循環ができることになった。こうした教師にMくんは信頼感を感じ、教師を裏切らない行動を心がけるようになったことが問題行動の減少につながったと考えられ、AD/HDの場合には情緒的なコミュニケーションが有効であることが言える。

Hくんの場合には被害的な言動はあるものの、大きな問題行動は減少した。一つは落書きなどの問題を起こしたときに、“やったことは悪いことであるということ”を一貫して毅然とした態度で示したこと、母親と一緒に謝りに行くことで、彼に「謝るほどの悪いことをした」ことをわかりやすく示したこと、こうした問題を起こすグループとの関わりを絶つことを指示したことなどの対応が有効であった。他者がどう思っているか自己の知識と区別する能力である「心の理論」の獲得が健常児より遅れ、健常児は他者の考えと自己の考えが相似することは幼児

期に認識されるが、ASなどの自閉症スペクトラムにおいては思春期になって初めて認識することになる<sup>13)</sup>。そのためHくんは相手の気持ちに立って物事を考えるということが非常に不得手であり「あなたが被害者の立場であつたらどう感じるの」という言い方で論ずることは不可能に近いことである。AD/HDでは可能である「相手の立場・気持ち」にたった認知理解に働きかけるのではなく、善悪を明確にすることや環境を調整するなど本人の立場を中心とした働きかけが問題解決に至ったと考えられた。

## 5 結論

軽度発達障害の反社会的行動を起こしやすいが、その行為に至るまでの心理的背景はそれぞれの障害で異なると考えられる。AD/HDの特性を持つものでは、実行機能の問題がその背景にある衝動性にくわえて劣等感や低いセルフエスティームとの関係から起こり、情緒的な対応で存在感を認めることが問題解決に有効であった。ASの特性を持つものでは状況把握の未熟さと被害的な感情が結びつき、善悪に対する明確な対応、環境調整が問題解決に有効であった。

尚、今回の2事例をまとめ、発表をすることについては保護者からの同意書を得ている。

本研究は平成16年度科学研究費（基盤研究（C）(2)No.15530628）の助成の一部を受けて行われた。

## 文献

- 1) 田中康夫、佐藤久夫、高山恵子著：えじそんブックレット アスペルガー症候群の理解と対応—新しい障害モデルから考える—、NPO法人えじそんくらぶ、P4、2003.
- 2) American Psychiatric Association: Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders(4th ed.), APA, Washington D.C., 1994.
- 3) World Health Organization: International Classification of Diseases and Disorders, WHO. Geneva, 1992.
- 4) 白瀧貞昭：アスペルガー症候群とLD、ADHDの関係、精神科治療学、14(1)、23-27、1999.
- 5) 田中康雄：軽度発達障害のある子どもたちにお

- ける被害体験と加害体験—強制するために尊重されるべき異文化—、こころの臨床 a・la・carte、21(1)、25-30、2002.
- 6) 原田謙：AD/HDと反抗挑戦性障害・行為障害. 精神治療学、17(2)、171-178、2002.
- 7) ラッセル・A・バークリイ：ADHDの理論と診断—過去、現在、未来、発達障害研究、24(4)、357-356、2003.
- 8) 星野仁彦：アスペルガー症候群の青年期における諸問題、精神科治療学、14(1)、15-22、1999.
- 9) 石坂好樹：アスペルガー症候群の症状の特異性についての精神病理、精神科治療学、14(1)、39-46、1999.
- 10) 杉山登志郎：軽度発達障害、発達障害研究、21(4)、241-251、2000.
- 11) 中林睦美、松本真理子：アスペルガー障害に見られる心理検査の諸特徴—継続的援助との関連—、児童青年精神医学とその近接領域、44(5)、425-439、2003.
- 12) 水田和江、藤田久美編著：障害をもつ子どもの保育実践、学文社、東京、2004.
- 13) 内山登紀夫、江波加奈子：アスペルガー症候群：思春期における症状の変容、精神科治療学、19(9)、33-40、2004.

---

**Title** : A Comparative Study of Children with Mild Development Disorder Who Manifest Frequent Antisocial Behavior

**Author** : Hitoshi Nakamura

School of Nursing, Yamaguchi Prefectural University

**Abstract**

Mild development disorder is primarily associated with such behavioral problems as hyperactivity and interpersonal relationship difficulty. Its secondary behavioral issues include antisocial behavior such as delinquency. Antisocial behavior of children with mild development disorder is thought to differ in the psychological process that leads to such behavior, depending on its types.

In this study, children with mild development disorder who are suspected to have attention deficit hyperactivity disorder (=ADHD) were compared with those with a strong tendency of Asperger's disorder and the characteristics of their antisocial behavior were analyzed.

As for the children with ADHD, their executive function disorder was derived from their impulse as well as their inferiority complex and low self-esteem. Thus affective treatment was an effective solution to their problems because it gave them sense of existence. As for the children with Asperger's disorder, their disorder was derived from the immature ability to grasp situations and sense of being victimized as well as their low self-esteem. Thus, a clear treatment with the sense of good and bad as well as an environmental adjustment were effective solutions.

**Key words** : mild development disorder, attention deficit/hyperactivity disorder, Asperger's disorder, self esteem, antisocial behavior

---